

支援プログラム

令和7年1月28日作成

法人(事業所)理念	子どもたちの無限の可能性を信じ、その可能性を最大限引き出すように努めます。 また、障がい児支援だけではなく、母子通園により、発達が気になる子どもへの関わり方を学ぶ育児支援の場を目指します。
支援方針	障がいのある子どもに対し、それぞれの障がいの特性に応じた「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」及び「地域支援」を総合的に提供します。 また、適切な支援をするために、相談支援専門員によるモニタリングから、状態の変化に気づき、個別支援計画の見直し等を行う支援の一連の流れ、PDCA(Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善))を実施します。
営業日・営業時間	月～金曜日(ただし、国民の祝祭日及び12/29～1/3を除く) 午前8時30分～午後5時15分
療育支援提供時間	月～金曜日 午前9時30分～午後2時
利用定員	15名
送迎	なし

【支援内容】

本人支援	障がいのある子どもの発達の側面から、将来、家庭や地域社会での生活に活かすための支援を行います。	
	健康・生活	【基本的生活習慣の習得】 <ul style="list-style-type: none"> 睡眠、食事、排泄、清潔、衣服の着脱、挨拶などの習慣が年齢相応に身についているかを確認し、個々に合った支援方法を保護者と一緒に考え、支援します。 食事は摂食指導でのアドバイスを基に支援します。食形態や口腔機能、感覚などに配慮しながら、楽しく食事ができる環境を整えます。
	運動・感覚	【運動機能や体の感覚、体の動きをコントロール】 <ul style="list-style-type: none"> 公園で遊びながら筋力をつけます。 姿勢保持ができるように、保育の中でバランスをとったり、日常生活に必要な動作を確認し、手足を使ったり、体幹を鍛えることを取り入れます。 ボディーイメージが持てるように、静と動の動きを取り入れて、落ち着ける場面をつくります。 理学療法でのアドバイスを基に保育に取り入れ、出来ることを増やします。
	認知・行動	【視覚、聴覚、触覚などを活用した情報の収集から認知機能の発達を促す】 <ul style="list-style-type: none"> 個別遊びや自由遊びを通して、子どもの特性を活かした支援をします。「できた」という成功体験を通じて自信が持てるように支援します。 数字や文字への興味、絵カードや写真を用いて支援します。 できなくても頑張る力、頑張ればできる力を育てます。
	言語・コミュニケーション	【挨拶や会話から円滑なコミュニケーションを促す】 <ul style="list-style-type: none"> 身振り言語や音声言語を使い、コミュニケーションの力を伸ばします。 オノマトペや絵カードを使い、保育をわかりやすくします。 自分の気持ちが伝わる喜びを感じることで、やりとりを楽しめるように支援します。 ことばの日でのアドバイスを基に、個々に合った支援をします。

	人間関係・社会性	<p>【ルールを守る一環として模倣する力を育てる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや保育の中で「ルール」が学べるようにします。順番を待ったり、友達との物の貸し借りを通して、社会性が身につくようにします。 ・ソーシャルスキルトレーニングを行い、相手の気持ちに気づいたり、自分の感情をコントロールできるようにします。 ・遊びなどを通じて、人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援します。
家族支援		障がいのある子どもを育てる家族に対して、障がいの特性に配慮しながら、保護者が子どもの発達を心配する気持ちから、障がいがあっても子どもの育ちを支えていける気持ちが持てるようになるまで、十分な配慮を行い、保護者に寄り添いながら、子どもの発達に沿った支援をします。
移行支援		地域社会への参加・包容の考え方に立ち、障がいの有無にかかわらず、全ての子どもが共に成長できるよう、可能な限り、地域の保育、教育等の支援を受けられるようにしていくとともに、同年代の子どもとの仲間作りを図ります。また、障がいのある子どもの発達の状況や家族の意向を聞き取り、地域において保育・教育等を受けられるように保育所等への支援を行います。
地域支援・地域連携		障がいのある子どもの地域社会への参加・包容を推進するため、保育所等の子育て支援機関等の関係機関との連携を進め、地域の子育て環境や支援体制の構築を図ります。
職員の質の向上		<p>療育に対する専門知識や相談援助技術の習得、利用者を取り巻く法令の変化に適切に対応するため、職員の能力や経験に応じた研修に適時参加し職員の資質向上に努めます。また、事故等の不測の事態に際し職員が対応できるよう技術の習得を図ります。</p> <p>なお、研修内容を職員へ伝達する機会として、内部研修を定例的に行い、職員全体の知識の向上と共通認識を図ります。</p>
主な行事等		<p>【本人支援】 ことば・理学療法・心理(発達)・摂食の指導、歯科検診</p> <p>【家族支援】 個別面談、保護者研修会、懇談会</p> <p>【移行支援】 園外保育、誕生会、防災訓練、卒園式、季節行事</p> <p>【地域支援】 関係機関研修会、機関紙発行</p>

支援プログラム

令和7年1月28日作成

法人(事業所)理念	子どもたちの無限の可能性を信じ、その可能性を最大限引き出すように努めます。 また、障がい児支援だけではなく、母子通園により、発達が気になる子どもへの関わり方を学ぶ育児支援の場を目指します。
支援方針	障がいのある子どもに対し、それぞれの障がいの特性に応じた「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」及び「地域支援」を総合的に提供します。 また、適切な支援をするために、相談支援専門員によるモニタリングから、状態の変化に気づき、個別支援計画の見直し等を行う支援の一連の流れ、P D C A (Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善))を実施します。
営業日・営業時間	月～金曜日(ただし、国民の祝祭日及び12/29～1/3を除く) 午前8時30分～午後5時15分
療育支援提供時間	月～金曜日 午後3時～午後5時
利用定員	15名
送迎	なし

【支援内容】

本人支援	障がいのある子どもの発達の側面から、将来、家庭や地域社会での生活に活かすための支援を行います。	
	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 友達とおやつを食べる中で、食べる前に手を洗う、座って食べる、落ち着いて食べるように支援します。 友達と楽しくおやつを食べる中で、情緒を安定させます。 利用時に体温チェックをし、健康管理に気を付けます。
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 鬼ごっこやサッカーなど、楽しく身体を動かせるようにします。 トランポリンを使って、運動機能を高めたり衝動性を緩和します。
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で、良い事と悪い事の区別が判断できるように気づかせます。 トランプやゲームを通して認知機能を高めると共に、勝負に負けた時に我慢する力や次に頑張れる力を育てます。
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 暴言などの社会的に不適切とされる行動を丁寧に観察しつつ、適切な行動がとれるように支援します。 友達に優しい言葉をかけることが出来たときは、褒めて繰り返すことができますようにします。
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶やルールなど、社会生活に必要なスキルを身につけます。 違う学校の子同士で情報交換して、情報を共有できるようにします。
家族支援		障がいのある子どもを育てる家族に対して、障がいの特性に配慮しながら、保護者が子どもの発達を心配する気持ちから、障がいがあっても子どもの育ちを支えていける気持ちが持てるようになるまで、十分な配慮を行い、保護者に寄り添いながら、子どもの発達に沿った支援をします。
移行支援		地域社会への参加・包容の考え方に立ち、障がいの有無にかかわらず、全ての子どもが共に成長できるよう、可能な限り、地域の保育、教育等の支援を受けられるようになっていくとともに、同年代の子どもとの仲間作りを図ります。また、障がいのある子どもの発達の状況や家族の意向を聞き取り、地域において保育・教育等を受けられるように保育所等への支援を行います。

地域支援・ 地域連携	障がいのある子どもの地域社会への参加・包容を推進するため、保育所等の子育て支援機関等の関係機関との連携を進め、地域の子育て環境や支援体制の構築を図ります。
職員の質の向上	療育に対する専門知識や相談援助技術の習得、利用者を取り巻く法令の変化に適切に対応するため、職員の能力や経験に応じた研修に適時参加し職員の資質向上に努めます。また、事故等の不測の事態に際し職員が対応できるよう技術の習得を図ります。 なお、研修内容を職員へ伝達する機会として、内部研修を定例的に行い、職員全体の知識の向上と共通認識を図ります。
主な行事等	【本人支援】ことば・理学療法・心理(発達)・摂食の指導、歯科検診 【家族支援】個別面談、保護者研修会、懇談会 【移行支援】園外保育、誕生会、防災訓練、卒園式、季節行事 【地域支援】関係機関研修会、機関紙発行